令和４年度第３回　感染症発生動向調査部会
議事要旨

１　日　時　　令和４年６月１５日（水）　１４：００～

２　場　所　　岐阜大学医学部本館　１階　小会議室（岐阜市柳戸１－１）

３　出席者

委　　員　：馬場　尚志（岐阜大学医学部附属病院 生体支援センター センター長）
大西　秀典（岐阜大学大学院医学系研究科　小児科学　教授）
澤田　明（岐阜大学医学部附属病院　眼科　臨床准教授）
加藤　達雄（国立病院機構長良医療センター 呼吸器内科統括診療部長）
大野　元（岐阜県産婦人科医会　理事）
石山　俊次（石山泌尿器科皮膚科）

オブザーバー：市原　拓（岐阜市保健所　感染症対策課　感染症対策係長）

事　務　局　：石塚　敏幸（感染症対策推進課 感染症対策第二係長）
山田　涼子（感染症対策推進課 技師）
今尾　幸穂（保健環境研究所 疫学情報部長）
青地　里佳（保健環境研究所 補助職員）

４　議　題　（進行：澤田委員）

（１）前月の感染症発生動向について
（２）検討すべき課題について
（３）情報提供すべき事項
（４）情報提供（月番委員専門分野から）
（５）その他（感染症対策推進課から）

５　議事要旨

【前月の感染症発生動向について】

・事務局からの説明は資料のとおり。
・月番委員のコメントについては資料のとおり。

【検討すべき課題について】

〇結核に関して、若い外国籍の方の報告の増加について
・4 月は留学生や技能実習生が入国しており、増加する恐れがあるので、啓発の必要がある。
・入国前の検査は実施されているが、新型コロナの影響もあり、機能しているか不明である。
〇RS ウィルスの今後の流行について
・コロナ前は秋の流行、昨年はこの時期から流行した。今年は 6 月に減少の状況であるが、いまのところ予測はできない。

・地域としては、昨年は九州から始まり、岐阜でも流行していた。沖縄は流行時期が違うので、他県も含めその動向に注目すべきである。
〇梅毒と淋菌の関係について
・淋菌は男女ともに増加していないので傾向が違う。梅毒が男性ばかりである理由は不明である。
〇サル痘への対応について
・症例定義に「常在国」は具体的な国名が列挙されているが、一般の医師にとっては「常在国以外のサル痘症例が報告されている国」がわからないと思われ、情報提供や情報源となるウェブサイトなどの提示が必要と思われる。
・水疱瘡と区別がつくのか。滞在歴から想定し、疑いの症例を検査するには詳細情報が必要である。